

池波正太郎 著

テレビで放映されていた時に何度か見たことがありますが、印象に残っているのは料理の映像だけ。図書館をのぞいたときに、真新しい文庫がそろっていたので今回読んでみることにしました。火付盗賊改メの長官、長谷川平蔵宣以は「正義のため」とか「悪が許せない」という大義の下で火付盗賊改メをやっているのではなく、「性に合っている」から続いているらしいのです。彼の持つ勘の良さと剣の腕前、江戸中に張り巡らされた網の目の情報網と機動力など突出した能力で、鬼の平蔵と呼ばれるほど、盗賊達に恐れられています。このシリーズは一冊の中に何編かの短編で構成されていて、主人公が火盗改メの同心であったり、鬼平の友人であったり、密偵であったりと毎回変わってゆきますが、最後は鬼平が締めくくります。ここで登場する盗賊達は、三箇条の掟 一、盗られて困る所からは盗まない・二、人を殺傷しない・三、女の人に手を出さない を遵守する「本格派」とそれを守らない「畜生盗め」派がありますが、鬼平はどちらも厳しく検挙してゆきます。彼は怖いだけでなく、「この人のために命をかける」と部下や密偵から慕われるほどの人として描かれています。本格派の盗賊だろうと人の物を盗むのは悪いことなのに、盗んだお金で慈善事業をして社会貢献をしたりする、「いい人」だったり。読み終わるごとに、「人は本当に色々な顔を持っているのだなあ。でも盗みはあかんで」と思いました。

F・N



文藝春秋

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株) ファッションビジネス・御堂筋新聞